

資料館見学の手引き

立川飛行場のあゆみ

立川市歴史民俗資料館

〒190-0013 立川市富士見町3-12-34

042-525-0860

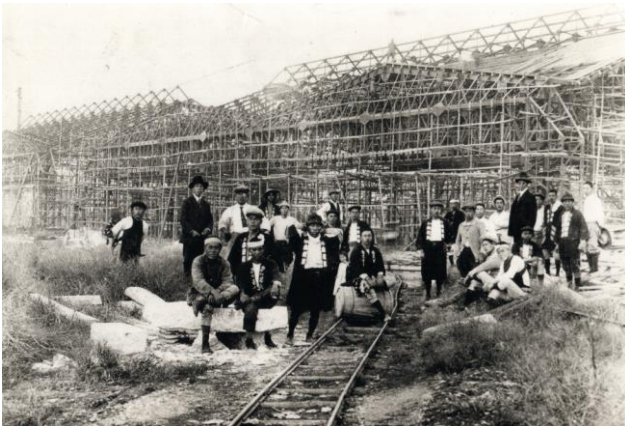
2006年7月改訂

第一次世界大戦（1914～1918）の結果、飛行機の重要性が認められました。そして、大正10年（1921）の秋、立川に飛行場が造られることになりました。立川が飛行場用地に選ばれたのは、①首都東京に近いこと。②人家のない広い平らな土地があること。③鉄道が通っていること。④気象条件に恵まれていることなどの理由からでした。

大正11年11月、立川飛行場は、陸軍飛行第五

大隊の基地として発足しました。その後、立川飛行場は、民間飛行場としても利用され、昭和4年には、立川—大阪間で、日本最初の定期航空が始められました。

また、外国から有名な飛行家が相次いでやってきて、立川の名は、国際的にも有名になりました。しかし、やがて立川飛行場は軍事基地に一本化され、立川も「軍都」と呼ばれるようになりました。



飛行場建設風景（建設工事は、大正11年3月から始められました。）



昭和初めの立川飛行場



初めて太平洋横断飛行に成功したアメリカの「ミス・ビードル号」



民間定期航空

昭和4年7月に日本で最初の民間定期旅客輸送が立川—大阪間で開始されました。

■戦後の立川飛行場

昭和 20 年に太平洋戦争が終ると、立川飛行場は、アメリカ軍の基地として利用されるようになりました。まちのあちこちには、英語の看板をかけたアメリカ兵相手の商店が目につくようになりました。



英語の看板をかけた商店(緑川沿い)



アメリカ軍の輸送機グローブマスター

■砂川闘争

昭和 30 年に、立川基地拡張の計画が伝えられると、地元の住民を中心に反対運動が起こり、

警官隊との激しい衝突がたびたび起きました。



基地拡張に反対する人々

■基地跡地の利用

昭和 52 年 11 月、立川飛行場は、日本に返還され、現在、跡地は国営昭和記念公園、広域防災基地、市街地等として利用されています。



国営昭和記念公園

■立川飛行場年表

年 月	できごと	年 月	できごと		
大 正	10年(1921) 秋	立川飛行場の建設決定される	昭 和	8年(1933) 9月	民間航空羽田へ移転
	11年(1922) 3月	飛行場建設工事着工		9年(1934) 3月	陸軍航空廠、所沢から移転
	11月	陸軍飛行第五大隊、立川へ移転		12年(1937) 4月	神風号訪欧飛行に成功
	12年(1923) 6月	日本飛行学校開校		14年(1939) 4月	陸軍航空技術学校設置
	9月	関東大震災発生、民間飛行機が取材、原稿輸送に活躍 朝日新聞社東西定期航空会、立川へ移転		20年(1945) 2~8月	立川市内各所、米軍機の爆撃を受ける
	14年(1925) 9月	御国航空研究所(後の御国飛行学校)開校		9月	米軍立川飛行場へ進駐
	昭 和	2年(1927) 9月		ソ連 ANT-3、立川に飛来(立川に飛来した最初の外国機) この後、外国機の飛来相次ぐ	30年(1955) 5月
3年(1928) 11月		陸軍航空本部技術部所沢から移転	43年(1968) 12月	米空軍司令官、立川基地滑走路拡張計画中止を発表	
4年(1929) 7月		日本航空輸送(株)旅客輸送開始	44年(1969) 10月	米軍、立川での飛行停止を発表	
5年(1930) 3月		石川島飛行機製作所(後の立川飛行機株式会社)月島から移転	47年(1972) 12月	陸上自衛隊、立川基地へ移駐	
6年(1931) 8月		日本航空輸送ほか旅客機は羽田へ移転	52年(1977) 11月	立川基地跡地、日本政府へ返還される	
			58年(1983) 10月	国営昭和記念公園一部開園	
		61年(1986) 5月	広域防災基地建設工事開始		
		平成	6年(1994) 6月	ファーレ立川まちびらき	
			17年(2005) 11月	国営昭和記念公園みどりの文化ゾーン開園	